

7月教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和元年7月25日（木） 午後2時00分～午後4時23分
- 2 場 所 市民活動センター2階大会議室
- 3 出席者 教 育 長 渡辺 宜宏
委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 河合 禎隆 田中ゆかり
事 務 局 教 育 次 長(鈴木 徹) 教育総務課長(太田英明)
学校教育課長(鈴木聖慈) 教育総務係長(木下靖義)
学校教育課主任主査(宮下 智亘) 学校教育課主任主査(辻村文美子)
学校教育課主任主査(高邑 和樹)
説 明 員 選定委員会委員長(吉原 靖則) 「国語・書写」説明員(山本ゆかり)
「社会・地図」説明員(齊藤 勝) 「算数」説明員(小笠原卓也)
「理科」説明員(山田 忠) 「生活」説明員(佐原 哲之)
「音楽」説明員(近藤美保子) 「図画工作」説明員(小松 健次)
「家庭」説明員(芦田 康宏) 「保健」説明員(平野 泰行)
「外国語」説明員(西川 睦弘) 「道徳」説明員(豊田 剛士)
- 4 議 案 第 14 号 令和2年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について

午後 2 時00分開会

(渡辺教育長) 出席は5名、定足数に達しているので、令和元年7月湖西市教育委員会定例会を開会する。

(渡辺教育長) まず、議案第14号「令和2年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」ですが、この議案審議に入る前に、本議案の審議を公開することによって、教科用図書の採択期限である8月31日前に情報が漏れるおそれ及び各委員の率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定及び湖西市教育委員会会議規則第14条第1項ただし書の規定により、本議案の審議につきましては非公開としたいと思うが、これに異議はないか。

(異議なし・傍聴者なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、本議案の審議については非公開に決定した。

それでは審議に入る。議案第14号「令和2年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」事務局の説明を求める。

(学校教育課長) 議案第14号「令和2年度湖西市立小学校において使用する教科用図書の採択について」、湖西市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則（昭和31年湖西市教育委員会規則第5号）第2条第1項第15号の規定により、令和2年度湖西市立小学校において使用する教科用図書を別冊のとおり採択したいので承認を求める。令和元年7月25日提出 湖西市教育委員会教育長 渡辺宜宏。

湖西地区では、静岡県の基本方針に沿って「教科用図書選定委員会」及び「教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。選定委員会の委員には、湖西市小中学校PTA連絡会の副会長、鷺津小学校PTA会長、湖西市校長会会長、校長会代表、学識経験者の以上5名の方を委嘱した。6月11日から3回の湖西地区教科書研究委員会を開催し、7月17日に行われた第2回湖西地区教科用図書選定委員会では、研究委員会からの調査報告を受け、採択案をまとめさせていただいた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和2年度から使用する教科書を決定していただきたい。

なお、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。

以上。

(渡辺教育長) ここでお諮りする。

教科用図書採択の採決については、種目ごとに調査研究報告、質疑、採決を行いた

いが、これに異議ないか。

(異議なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、種目ごとに調査研究報告、質疑、採決という順番で行う。

また、事務局から、各教科の調査研究に関する報告を行うため、湖西地区教科用図書選定委員会の委員長、説明員及び補助員の入室の許可について申出があった。これを許可することに異議ないか。

(異議なし)

(渡辺教育長) 異議なしと認め、選定委員会委員長、説明員及び補助員の入室を許可することとする。説明員の準備があるため、しばらくお待ちいただく。

それでは、まず湖西地区教科用図書選定委員会の経過について、委員長である鷺津小学校の吉原校長に報告を求める。

(選定委員会委員長) 5月28日に第1回の湖西地区教科用図書選定委員会を開催した。採択の流れや調査研究の観点などについて確認をした。委員は、学識経験者として元湖西市教育委員会教育長の山下宗茂様、保護者代表として湖西市小中学校PTA連絡会副会長の伴和信様、鷺津小学校PTA会長の近藤和彦様、校長会代表・湖西中の尾崎美子校長と私の5名である。7月17日には、第2回の湖西地区教科用図書選定委員会を開催し、代表者から調査研究報告を受け、採択案について協議をした。採択案については、お手元の資料にまとめさせていただいている。御審議をよろしく願います。

(渡辺教育長) 続いて、教科用図書の採択に関する全体的な説明を、事務局に求める。

(学校教育課主任主査(辻村)) 小中学校で使用する教科書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条とその施行令により、4年間同一のものを採択することになっている。採択の流れについては、表を確認していただきたい。

なお、通常であれば、4年間同一の教科書を使用するが、小学校については令和2年度より次期学習指導要領の教育課程が実施されるため、前回採択された教科書は平成27年度から5年間使用している。静岡県は11の採択地区に分かれており、湖西地区はその一つとなっている。湖西地区では、「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿って「湖西地区教科用図書選定委員会」及び「湖西地区教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和2年度から使用する小学校の教科書を決定していただきたいと思う。よろしく願います。

以上。

(渡辺教育長) これまでの報告及び説明について、質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) それでは、続いて各種目の代表者から調査研究の報告をしていただく。まず初めに、道徳について、報告を求める。

（「道徳」説明員） 最初に、どの教科書にも学習指導要領に示されている内容項目を指導できるよう、教材配列の工夫や配慮がされており、児童が興味や学習意欲をもって授業が展開できるように挿絵や写真などを掲載している。次に各教科書の特色について報告する。

まず、東京書籍である。資料の前に内容項目に関する投げかけの言葉、資料の最後には何について考えるのか、学期ごとに振り返るワークシートが用意されている。また、話し合いの約束や1年間で学ぶことが示されて授業を進めやすいように工夫されている。

次に、学校図書である。読み物編と活動編が分冊で構成されている。読み物編に発問内容が載っておらず、読み物編で「主題」でねらいを確かめ、活動編での「発問」で考えを深めるなど、担当教師の自由な授業の構成が可能である。また、文字数が少なく、写真や挿絵が効果的に使われ、読み物編が読みやすくなっている。

次に、教育出版である。「考えよう」「深めよう」に発問が多く載っていて、経験の浅い教員にも取り扱いやすくなっている。役割演技を行う「ジャンプ」や実体験を通して考える「モラルスキルトレーニング」を全学年で取り入れ、道徳的価値を深められるように配慮されている。

次に、光村出版である。学習の手引き「考えよう」では3段階構成の問いを提示し、児童が主体的に課題を意識して学習できるようにしている。また、「学びの記録」で毎時間振り返ることにより、自己の成長を実感することができる。

次に、日本文教出版である。各教材の冒頭には、主題名、導入発問例、あらすじ、主な登場人物が描かれており、思考の流れに沿って主体的な学びができるようにサポートしている。別冊「道徳ノート」では、指導と評価の参考になったり、自己の成長を振り返ったりすることができる。

次に、光文書院である。「問い」を重視し、導入時、展開時、終末時にそれぞれ児童の思考を促す投げかけをするなど教材を深く読み込む構成になっている。巻末の「学びの足あと」では、考えの変容や学びを記述することで、児童一人一人が自分の考えや感じ方の変化を捉えやすくなっている。

次に、学研教育みらいである。児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視しているため、あえて主題名を本文に記載せず、児童の問題意識を大切にした構成・展開になっている。また、4種類の「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」「深めよう」のページにおいて、児童の考えを深め、自己を見つめるきっかけとなる問いがあり、「考える道徳」「議論する道徳」の実現が可能と思われる。

最後に、廣済堂あかつきである。教材冒頭で学習のめあてを示し、末尾にある「考えよう話し合おう」によって、学習の道筋を把握したり、学習を広げたりすることができるようになっている。別冊のノートは書き込み欄が大きく、授業の展開に応じて弾力的に活用が可能である。

それぞれの教科書が特色をもっているが、昔からよく知られている教材や事実に基づく教材が多く児童が内容理解しやすく、実際の道徳的実践力につながるよう工夫されているため、学研教育みらいの教科書が、湖西市の児童にとっては最適だと思う。

以上。

（渡辺教育長） 質疑のある方は発言をするように。現在、使用している教科書は、学研教育みらいである。引き続きということである。

（袴田委員） 学研教育みらいの教科書のサイズが少し大きいと感じるが、どう判断されたか。

(「**道徳**」説明員) 4年生教科書の「お母さんの請求書」がどの教科書にも教材として掲載されている。そこを見比べると見やすさがわかると思う。小さな教科書より見やすく、文字も大きい。教科書が大きくても、ほとんど学校に置いていくため、見やすさを最優先した。

(**袴田委員**) 確かに一番見やすい教科書だと感じるが、持ち運ぶには大きいと思い質問した。

(**渡辺教育長**) 他に質疑がないようであれば、道徳の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(**渡辺教育長**) 挙手全員である。よって、道徳の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、外国語について報告を求める。

(「**外国語**」説明員) 教科書研究委員会では、教科書の選定に向けて、7社について調査研究を行った。7社ともに、主たる教材としての内容を備えており、その内容が学習指導要領の教科の目標を達成するために適切であり、また、教材の組織や配列・分量において、児童の発達段階等を十分に考慮されていた。これらのうち評価が高かったものは、2番東京書籍、17番教育出版、38番光村図書であった。

東京書籍は、教科書とともに、身に付けたい単語や大切な表現の学びの助けとなる別冊の「Picture Dictionary」が備えられている。教科書は、A4版サイズを採用しており、意味あるイラスト、写真等がバランス良く配置されている。5年生では身の回りのことから地域や日本のことへ、6年生ではさらに舞台を世界へと広げ、児童の発達段階に合わせた内容構成となっている。4、5ページを開いていただきたい。各学年、音に出会い、会話に慣れ、コミュニケーションを楽しみながら、世界を広げることが基本とした8つのUnitと学びを確かめるための「Check Your Steps」から構成されている。各Unitの学習では、冒頭に「Our goal」で目標が示されており、学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。また、学んだ結果、何ができるようになるのかを、イラストやQRコードの学び方動画によって確認することができようになっている。

教育出版は、AB版が採用されており、児童の学習意欲を高めたり、音声や英文内容の理解を助けたり、児童の想像力を高めたりするための挿絵や写真がふんだんに用いられている。内容面では、児童にとって興味深い話題が取り上げられ、実際の使用に即した場面が設定されている。14ページや24ページ等にあるように、各Lessonの第1見開きに目標が示されており、「外国語を使って何ができるようになるか」が明確になっており、コミュニケーションの目的を意識しながら、Lesson内の各活動を進めていけるように工夫されている。各Lessonでは、「Let's Watch」で映像を見ながら音声を聞いて内容をとらえることから始まり、「Let's Sing」や「Let's Say It Together」で歌やチャンツ等で口慣らしをし、「Let's Listen」で聞く活動を行う。その後、「Activity」で基本的なやり取りをし、最後に「Final Activity」で発表や、やり取りをするという構成がとられている。

光村図書もAB版を採用しています。巻頭で、児童が学習への不安や戸惑いを抱かな

いよう配慮がなされている。6、7ページの「教科書の使い方」では、1年間の学習の流れを概観することができる。また、「Unit」の学習の展開のされ方が丁寧に説明されている。8、9ページの「5年生でできるようになること(CAN DO)」により、1年間の学習の見通しがもてるようになっている。言語活動のほとんどが10分から15分の短時間で学習できるようになっているため、集中して学習に取り組みやすくなっている。どの単元も「聞く」活動から始まり、その後「話す」「読む」「書く」活動へとつながっていくため、言語習得の自然な流れで学習することができる。

7月17日に開催された教科用図書選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、採択希望1社の絞り込みを行った。これら3社のうち、ページ数など全体としての教材の分量が適切で、また、QRコードをより充実させたり、別冊の「Picture Dictionary」が備えられたりして、効率的にかつ効果的に学習を進めることが期待できる東京書籍が最もふさわしいとの判断をした。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。教科書の大きさがそれぞれ違うが、東京書籍が一番大きいサイズということか。

(「外国語」説明員) 東京書籍はA4版で一番大きなサイズとなっているが、「Picture Dictionary」と分冊となっており、7つの教科書すべてを報告しないが、東京書籍は280グラム、106ページ、教育出版は330グラム、146ページ、光村図書は335グラム、161ページと分冊したことにより、教科書の軽量化が図られている。基本的には、教科書は学校に置いていくこともできるが、家庭でQRコードで音に触れることもできるため、持ち帰るということを考えたときに軽量ということも選考の判断材料となった。

(袴田委員) 音についてだが、会話を聞くときはどういった手法なのか。

(「外国語」説明員) 教員用の教科書にはCD等が添付されているが、各社とも教科書にQRコードが付いている。教科書によってはデモ程度のものもあるが、東京書籍については、音だけのものと、動画となっているものもあり大変充実している。教育出版も非常に多くのQRコードが付いているが、148項目のQRコードがあり、ほぼ授業の内容を見ることができる東京書籍が一番充実している。

(袴田委員) 動画というとTVに写すことも可能か。

(「外国語」説明員) 学校ではTVやタブレットで可能である。ただし、タブレットについては一人一台とはいかないが、各グループに一台程度はある。また、家庭に戻ってタブレットやスマートフォンでも再生できるため、自主学習、復習等ができると考えている。

(佐原委員) CDがあり、QRコードもあるということだが、実際の授業では基本はCDで進めていくということでしょうか。

(「外国語」説明員) 出版社によって違うが、例えば、教育出版の場合、600を超える音声等がある。その内児童が利用できるQRコードは140程度である。教員用指導書の方が盛り沢山になっていて、その中で核となっているものが児童用教科書に付いている。教員の授業の進め方によるが、先ほど答弁したように、タブレットは一人一台はない状況だが、モニタに写すことはできるため、教員によって、場面で使い分けることになると思う。

(佐原委員) 家庭でQRコードを使用して学習できるのは非常に良い。聞くということが一番最初に来るのが良いと思う。光村図書が良いと思うのは、最初に聞くということを重視する点で、東京書籍でいうと、まず一斉で英語を聞く場合、QRコードを各々使うのか、CDを使うのかどうなのかと思う。

(「外国語」説明員) 教員が指導していくことになるので、児童それぞれがQRコードを読み取り授業を進めるようなことはない。たしかに光村図書も内容が良く、東京書籍か光村図書のどちらかにということになったが、最終的にはトータル的に判断して東京書籍を選定した。

(佐原委員) 別冊「Picture Dictionary」の内容はどうなっているのか。

(「外国語」説明員) 小学校では英単語を600から700習得することになっている。イラストとそれを表す英単語が掲載されており、いわゆる辞書となっている。教科書の一定箇所「Picture Dictionary」を参照するように表示がされている。

(佐原委員) どの会社にも別冊があるのか。

(「外国語」説明員) 東京書籍以外は教科書の巻末に掲載されており、若干活用しづらいが、東京書籍は分冊になっていることで活用はしやすくなっている。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、外国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、外国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、保健について報告を求める。

(「保健」説明員) どの教科書も、学習指導要領の目標と内容がもれなく指導できるよう、単元構成や教材配列に工夫や配慮がなされているとともに、児童が意欲をもち、学習活動に取り組めるように挿絵、資料、写真等が豊富に掲載されている。

まず、東京書籍である。気づく・調べる、解決する・まとめる・生かすと、各項目は全て4ページで構成されており、児童にとって、学習の流れが把握でき、授業もスムーズに進められる構成となっている。それぞれの段階において、必要な情報が絞られており、考える内容が焦点化され、対話的な授業が行われやすい内容となっている。また「つなげよう」では、他教科との関連を意識した内容があり、より広い見方で考えることができたり、教科横断的な学習を意識したりすることができるよう工夫されている。

次に大日本図書である。各単元の最初に関連写真、見開きで学校生活や地域の生活でのイラストによる学習ゲームが組み込まれ、児童自ら学習課題を見付け、問題意識をもてるようになっている。「はってん」「もっと知りたい！」等のコーナーを設け、今日的な課題を多く取りあげ、興味を高めたり、理解を深めたりすることができるよう配慮されている。

次に文教社である。1時間単位で要する資料の量に軽重があり、話し合い活動や体験活動に必要な資料が適量となるように配慮されている。また、レベルアップ「あなたならどうする」のコーナーでは、生活の中に起こりうる具体的な場面を想定した自分自身の行動や、今後の生活における行動目標を立てることができるようになっている。

次に光文書院である。巻頭にトップアスリートからのメッセージが掲載されていたり、書く単元の最初に、イラストと会話で4コマ漫画で単元の予告がされていたりするなど、児童が共感的に受けとめられる内容になっている。「学習のまとめ」では、知識の定着を図りながら、学んだことを自分の生活にどう生かしたいかを考える設問

が設定されている。特に「広げよう・深めよう」では、中学校の保健体育での学習が多く掲載されており、これからどのような学習を進めていくのか、見通しがもてる内容となっている。

最後に学研である。学習内容に関連する専門家のキャラクターが豊富で、それぞれの立場からのコメントを載せ、理解が深まるように工夫されている。また、「かがくの目」のコーナーでは、視覚的に科学的な理解ができるよう配慮されている。学習の振り返りでは、具体的な場面を取り上げたり、これからの生活に生かすことを考えたりして、実践的に理解できるように工夫されている。また、チェック表で行えるため、児童個人の評価がしやすい配慮がされている。

それぞれの教科書が特色を持っている。保健の授業は、年間8時間と限られた時間での指導のため、内容や資料の量などの精選が求められる。「主体的・対話的で深い学び」を考えたとき、課題発見・追求・まとめという各過程での進め方、内容・資料の量が適量である東京書籍発行の教科書が、湖西市の児童にとっては最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。現在はどこの教科書を使っているのか。

(「保健」説明員) 東京書籍であり、引き続きということになる。

(袴田委員) 見やすい教科書であると思う。引き続きということだが、どのようなところを評価されたのか。

(「保健」説明員) 保健の授業は年間に8時間程度である。東京書籍は、最初に写真を見て課題を見つけ、次ページで、調べる・解決するという追求の段階、さらに次ページのまとめで1時間の授業構成となっている。比較して学研は、課題を見つける、調べる・解決するが見開きのページで構成されているため、児童が先に結論が見えてしまっている。東京書籍はすべて同じ構成となっており、教員も児童も限られた時間の中で使いやすい構成になっているため最適だと判断した。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、保健の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、保健の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、家庭について報告を求める。

(「家庭」説明員) 両教科書とも、学習指導要領に示されている「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」という小学校家庭科の目標達成に向けた内容構成になっており、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図ることのできる掲載内容となっている。また、各内容・項目において、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善していくことができるよう、構成されている。

次に各教科書について報告する。まず、東京書籍は、それぞれの題材において、ステップ1課題発見、ステップ2課題解決・実践活動、ステップ3評価・改善という学習の進め方で構成されている。これにより、児童は明確な目的をもって学習に取り組

み、実践的な態度を養う。また、他教科や中学校の学習内容との関連を示すマークが明示され、教科相互に関連付けた学習や発展的な内容を取り上げた学習が可能となっている。さらに、デジタルコンテンツを示すマークが明示されているため、個に応じた動画での学習が可能となっている。

次に、開隆堂である。各題材が日常生活から課題を見いだす問い掛けから始まっており、導入にフォトランゲージの手法を用いていることもあり、児童が学びの必然性を実感できる工夫がされている。また、新学習指導要領に示されている「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるきっかけとなる事柄が記載されており、見方・考え方を生かした学びを積み上げることができ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を養うことにつながると考える。そして、各ページに記載されているQRコードでは必要に応じて動画を確認でき、児童の個別課題に対応することが可能となっている。

両教科書とも、児童に受け入れられやすい工夫がされ、子供たちの主体的な学びに資することができると思われる。その中でも、学びに必要とされる情報が精査され、学びの質を高めることができる構成が工夫されている開隆堂発行の教科書が、湖西市の児童にとって適切だと考える。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(佐原委員) 東京書籍にはQRコードは付いているのか。

(「家庭」説明員) 一番最初のところにDマークが書いてあり、Dマークが付いているところはQRコードで調べることができる。開隆堂については、ページごとにQRコードが付いている。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、家庭の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、家庭の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、図画工作について報告を求める。

(「図画工作」説明員) まず、開隆堂である。内容面では、児童が共同で行う活動が多く提示され、対話的な学習を促している。3つの資質・能力に対応した学習のめあてをキャラクターで分かりやすく提示されている。また、末尾には活動からどんな力を培うことができたか確認できるよう、振り返る視点を取り入れている。組織・配列の面では、低学年は、身近な自然や友達とのかかわりを大切にする「造形遊び」が多く設定され、高学年は、コンピュータやICT機器を使った題材が取り入れられ、就学前教育や中学校との連携を図る配慮がなされている。鑑賞題材が全学年4ページを通して設定し、美術文化を実感的に理解できるようにしている。発達段階への配慮の面では、どの学年でも、安全に活動するための留意点や片付けのしかたなどが分かりやすく示されている。中でも、QRコードが掲載され、用具の安全な使い方や作り方の動画、教科書に掲載された作品以外の参考作品例を見ることができる。

次に日文である。内容面では、育成をめざす資質・能力が「3つの学習のめあて」として題材ごとに提示されている。また、作品や制作している児童の写真に吹き出し

が多く、制作のヒントになっている。見開きで一つの題材というレイアウトで、見やすくなるよう配慮されている。組織・配列の面では、6学年を通して、同じ材料や用具を繰り返し関わるができるよう、題材を系統的に設定し、発達の段階とともに学びを深めていくことができる。特に、低学年においては、生活科と関連する題材が多く掲載されている。さらに、道徳との関連が深い題材には道徳マークが付けてあり、意識できるようになっている。発達段階の配慮の面では、写真やイラストにおいて多様な児童がともに学び合う姿や幼児、高齢者など多様な人々とかかわる姿が掲載されている点が特徴である。

どちらの教科書にも図や写真などで分かりやすく示しす工夫、身近な素材を使用し、各学校の実態に応じて工夫して取り組むことができる配慮、質の高い美術作品や写真が掲載等がされた優れた教科書であると思う。しかし、主体的で対話的な深い学びを重点としたい湖西市の児童にとっては、その点を明確して構成されている開隆堂の教科書が適当だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、図画工作の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、図画工作の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、音楽について報告を求める。

(「音楽」説明員) 最初にどちらの教科書にも共通して配慮されていると思われることを3点報告する。1点目は学習指導要領の目標と内容が6年間で系統的に指導できるよう、題材構成や教材配列が工夫されている。2点目は曲を聴く、身体表現をする、言葉による対話をするなど、様々な活動を取り入れることにより、児童が音楽のよさや面白さを感じ取り、思いや意図をもって音楽表現ができるように工夫されている。3点目は音楽活動についての手引きや共通事項に関する資料が充実し、児童が学んだことを生かして主体的に学びを深めていくことができるような配慮がされている。

次に各教科書の特色について報告する。まず、教育出版である。多様なジャンルの教材が掲載され、表現、鑑賞、音楽づくりなど様々な音楽活動が児童や各学校の実態に応じて選択しながら行うことができるようになっている。音楽を形づくっている要素(共通事項)を各ページの右上や巻末に「音楽のもと」として示すことで、基礎的・基本的な内容が定着するように工夫されている。器楽指導では、イラストや写真が多く掲載され、演奏時に確認しながら取り組めるように配慮されている。

次に、教育芸術社である。どの題材においても精選された教材がバランスよく配置され、無理なく系統的に学習を進められるような構成になっている。1年の見通しとなるページがあり、目次や各ページと関連しているため、題材の意図や配列が指導者

にとって分かりやすいだけでなく、児童にとっても何を学ぶのかをつかむことができる。全体的に柔らかな色調や白を基調とするすっきりとした紙面など、ユニバーサルデザインを取り入れることによって様々な発達特性をもった児童への配慮がなされている。楽器の演奏方法などに二次元コード、QRコードがついており、ICT機器を用いて学習に役立つように配慮されている。

どちらの教科書もそれぞれのよさがあるが、指導者も児童も見通しをもって学習を進められる、楽しく主体的に学習を進められるという点で、教育芸術社発行の教科書が、湖西市の児童にとって適していると思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) 教育芸術社だけがQRコードが付いているのか。

(「音楽」説明員) 教育出版にも付いているが、教育芸術社はその都度QRコードが付いているので使い勝手は良いと思う。

(袴田委員) 教育出版は多様なジャンルが掲載され、教育芸術社はバランスよく配置されているということだが、一冊で見た場合は、教育芸術社がわかりやすいということか。

(「音楽」説明員) 多様なジャンルについては、歌集もあるので、そちらでカバーできる点と、教育芸術社は丁寧に説明が記載されていて、自分で見て学習ができるという良さがある。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、音楽の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、音楽の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。ここで、少し休憩を入れさせていただく。再開は、午後3時20分からとする。

午後3時10分休憩

午後3時20分再開

(渡辺教育長) 休憩を解いて、会議を再開する。

引き続き、生活について報告を求める。

(「生活」説明員) 8社について調査研究した。最初にどの教科書にも、共通して配慮されていることを3点報告する。1点目は内容が、自分自身や生活について気付き、考え、表現できるような、気付きを高める工夫がなされていて、生活習慣上必要な習慣や技能が身に付くように配慮されている。2点目は組織・配列・分量では、児童が自ら学習に取り組むことができるように配慮されていて、他教科・他学年との関連が配慮されている。3点目は児童の発達段階への配慮として、スタートカリキュラムが準備されているなど、幼児教育から小学校教育への接続や低学年の児童の学習意欲を引き出すような配慮がなされている。

次に各教科書の特色について各社上の「秋みつけ」の単元を例にあげて報告する。

東京書籍である。66ページ「たのしいあきいっぱい」A4版のひときわ大きな教科書である。ダイナミックな写真で児童の意欲や好奇心を喚起し、生活科で育成すべき「資質・能力」を吹き出しや表現作品で具体化している。また、69ページ保護者と一緒に関く教科書として「やくそく」に関する情報などをインターネット、Dマークで紹介するなど、デジタルコンテンツが充実している。

大日本図書である。60ページ「あきとあそぼう」62ページ白黒写真を活用することで、季節の変化について児童が五感を使って考え、気付きの質を高められるように工夫されている。66ページ教師への支援場面の例示で、深い学びへと導く。ダイナミックなページ構成、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」など、児童の興味関心をひく多くの仕掛けが工夫されている。

学校図書である。58ページ「あきをたのしもう」写真が大きくて、見やすく、児童の意欲を引き出すようになっている。また、62ページ季節ごとの図鑑も実物大でしかも正確で、特徴がつかめ、児童の興味を引く。各単元が「どきどき→いきいき→ふむふむ→にこにこ」で展開され、学習展開が繰り返し行われており、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる構成になっている。66ページ「ものしりノート」には、あそび道具の作り方とともにQRコードを活用することで動画でも見ることができます。4人のキャラクターを設定し、その表情や吹き出しから、互いに励まし合いながら共に成長していく姿を示し、対話を通して自己の成長を自覚する道筋がみえるようになっている。

教育出版である。72ページ「きせつとなかよし あき」写真やイラストで、児童の気付きを高めるようなキーワードを示したり、投げかけたりして五感を使った児童の気付きを促す工夫がされている。81ページ「まんぞくハシゴ」単元ごとに児童の思考を促す「ヒント」や自己評価ができ、児童が自発的に学習を進められるよう配慮されている。

信州教育出版である。84ページ「あきがいっぱい」唯一の縦書き、右開きの教科書である。地域の特色を生かしたり行事を大切にしたりと、児童の興味関心を引き出すような構成が工夫されている。単元の活動がストーリー性をもって展開されており、児童が願いや意欲をもち、自ら人・もの・ことについて追究していけるようになっている。

光村図書である。74ページ「あきといっしょに」児童の思いや願いを端的に表現している印象的な見出しや、カードや絵日記などに書かれた文章が、気付きの質を高めるためのヒントになっている。単元の学習手順が、ホップ・ステップ・ジャンプの3段階で構成され、子どもの思いや思考の流れを大切にしながら進めることができるよう配慮されている。季節ごとの遊びについての写真やイラストが掲載されており、児童の関心意欲を喚起するよう工夫されている。

啓林館である。72ページ「あきとなかよし」各単元を「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」と3段階で示すことで、学びのサイクルを分かりやすく提示し、主体的に学習に取り組めるように構成されている。単元の終末には「できるかな できたかな？」と、振り返りの視点が示されている。73ページのようにQRコードがあり、図鑑や動画にアクセスしやすいことで、児童の学習意欲を高め、主体的な探究活動に取り組みやすいと考えられる。

日本文教出版である。74ページ「きせつとあそぼう あき」76ページ各単元における育成すべき3つの資質・能力に基づいた学習のめあてがページ下部に色分けされて提示されており、ねらいがつかみやすいと思われる。88ページ単元の終末には、「ふ

りかえる つなげる」コーナーが設けられ、児童の思いを生かす表現方法を選んだり、次時への期待をもったりすることができるようになっている。

どの出版社も、写真やイラスト、キャラクターなどを効果的に使い、低学年の子どもたちの興味関心、学習意欲を引き出す工夫がなされていた。その中でも、学校図書の教科書は、単元構成が湖西市の小学校の学習計画にあっている、しかも、写真やイラストなどから、より多くの気付きを生む可能性が高く、デジタルコンテンツも充実している。主体的な学びが期待できるので、湖西市の児童にとって最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、生活の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、生活の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、理科について報告を求める。

(「理科」説明員) 6社いずれの教科書も、問題解決型学習を意図した構成、対話的活動の重視、他教科や実生活と学習内容の関連づけ、科学的な見方や考え方の伸長など、新学習指導要領の趣旨を具現化させるための様々な配慮が認められ、甲乙付けがたい状況であった。また、6社ともQRコードを活用し、子供たちの学習の支援をしている点、プログラミング教育との関連を図っている点は、これまでにない新しい傾向と言える。報告書にございます内容から特色と思える点を抜粋し、6年生の教科書を例に確認させていただく。

東京書籍については、大判の紙面を生かした写真資料の充実という点で秀でていますが、24ページのキャラクターの吹き出しのように、どの順に読めばよいかわかりにくく、子供たちの視線の流れが複雑になるレイアウトが多い点は改善の余地が感じられる。

学校図書につきましては、学習の基盤となる用語やその意味をしっかりと整理し、基礎・基本を確実に押さえようという意図が感じられる教科書である。しかし、13ページのように実験方法のページと実験結果のページが隣接している場合が多く、実験方法を確認する段階で、実験結果まで子供たちの目に入ってしまう配置は、問題解決型の学習を展開する上で芳しくないものと思われる。

この点は、信州教育出版につきましても同様である。また同社の教科書は、写真の画質やイラストの写実性という点で他社に劣っている点も改善の余地があるものと思われる。

相前後しましたが、教育出版の教科書は24ページにありますように、6社中、唯一、教師のキャラクターを設定しているのが特徴で、主発問や板書例が提示されている点など、理科専科でない教員にも指導しやすい内容となっている。しかし、他の教科書

に比べて非常に重く、ランドセルの軽量化という要望に逆行しているという点、そして、子供のキャラクターの吹き出しが数的にも内容的にも多すぎるため、対話的活動の手本にはなるが、子供たちが自分の考えをもとに、自分の言葉で話し合うという点で支障があるのではないかと思われる。

続いて、大日本図書については、6社中、最も対話的な活動を重視し、科学的な思考力の伸長を意図しているように感じられる。14ページの子供のキャラクターの吹き出しを御覧いただきたい。学習問題について予想する場面であるが、会話文が完結していない。リード文だけを示したものとすることで、「子供たち自身に考えさせ、子供たちの言葉で表現させたい」という意図が強く感じられる。また、26ページには単元のまとめの問題があるが、既習事項を応用して考え、話し合いを通して解答を導く、そういう活動が必要な問題を、どの教科書よりも多く掲載している。ここでも科学的な思考力を重視する姿勢がうかがえる。

最後に啓林館であるが、27ページの唾液の働きを調べる実験のように、「子供たちが唾液を採取しやすい」「お湯を用意しなくても実験ができる」等、検証のための実験方法について大変工夫されている点が大きな評価ポイントである。また、26ページのように、学習の流れやキャラクターの吹き出しが整然と並んでおり、6社中、最も見やすいレイアウトになっている。さらに、巻末のフムロウ博士の資料室に理科室や器具の使い方が分かりやすくまとめられており、基礎・基本を確実に定着させるのに適した教科書だと思う。ただ惜しむらくは、28ページのように、予想や考察の内容が、キャラクターの吹き出しとして全て表記されてしまっているため、教育出版の教科書と同様、対話的活動を進める上で、子供たちが自分の考えを盛り込む余地がほとんどないという点は、少々残念である。

以上のように、「基礎・基本の確実な定着」「教科書全体の完成度」という視点では啓林館の教科書が秀でており、「対話的で深い学び」「科学的な見方・考え方を駆使して学ぶ」という視点では、大日本図書の教科書が抜きんできているものとする。湖西市では高学年を中心に理科専科の教員が指導することが多いことを鑑みて、科学的思考力の伸張を狙う大日本図書の教科書が最適だと判断した。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、理科の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、理科の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、算数について報告を求める。

(「算数」説明員) どの教科書にも、今回の指導要領の一つの柱である、子どもたちの主体的で対話的で深い学びを成立させようとする配慮がみられた。

まず、東京書籍である。8ページ、各単元の導入では、子どもたちの日常生活から集めた素材を生かして、学ぶ意欲を高めると同時に学習課題が生まれるように工夫されている。また、各単元末の工夫により、当該単元の学習内容と既習事項をもう一度つなげるとともに、当該単元の課題解決において考え判断した過程を、数学的表現を用いて伝え合う活動ができるように工夫されている。

次に、大日本図書である。2ページ、本文中様々なマークが差し込まれており、いろいろな場面で使える数学的な見方考え方や他の学びとのつながりが示され、子どもたちの気づきを促し、主体的な学びとなるよう工夫されています。また90ページ、リンクのページで算数の学びが、他教科や日常の生活に生かされていることに気づくように工夫されている。

次に教育出版である。2ページ、課題意識を持たせ、算数的な見方考え方に気づかせ、さらに深い学びを促すためにマークや吹き出しが、設定してあり、問題解決の流れの理解を深め、数学的な活動が充実するように工夫されている。また、コラム的に考えるヒントやよくある間違いが示されており、自分の力で理解を深められるように工夫されている。単元末では、4コマ漫画を活用して、数学的な見方考え方のつながりに気づかせ、学びの成果や算数の良さを実感させるように編集されている。巻末では、6年間の学びをまとめ中学校の学びへつなげるとともに、自分で取り組むページが設定されている。さらに発展的な内容や算数の実用性に関する内容がまとめられ、算数の良さを実感できるように工夫されている。

次に学校図書である。8～10ページ、巻頭で主体的な学び、対話的な学び、深い学びが例示されており、本文中にもそれに対応する「調べたいな、考えたいな、解決したいな」などの側中がつけられ、主体的で対話的な学びを意識して学習を進められるように工夫されている。また、深めようのページにより発展的な内容や生活とのかかわりなどに気づかせることができます。巻末では、今の自分を知ろうが設定されており、身に着けた力を振り返り、今後の自分なりの学びを促すよう工夫されている。

次に啓林館である。70、71ページ単元末で、「たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう」を設定し、学んだ内容を確認し、要点をまとめ、発展的な内容に挑戦し、学習内容の定着を図るよう工夫されている。また、学ぶ内容ごとに「めあて」が提示され、子どもたちの主体的な学びを促している。さらに、多くのページにQRコードが掲載されており、ICTを活用して子どもたちの学びを充実させるように工夫されている。

最後に日本文教出版である。12～15ページ、写真と吹き出しを利用し、子どもたちが考え、話し合い、答えを導く場面をわかりやすく表現することで、子どもたちを、主体的で対話的な深い学びへ導こうとする工夫がされている。単元末では、内容の確認と同時に間違いやすい問題を提示し、学習事項の定着を図るようになっている。巻末では個に応じて習熟度別に問題に挑戦ができるよう、マイトライが設定されている。

このように、それぞれに様々な工夫がなされているが、自分の力を生かして主体的に学び、算数の良さに気づくことができるように多くの工夫がなされている、教育出版社編集の教科書が、湖西市の児童にとっては最適だと思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。教育出版社が最適だということである。

(「算数」説明員) 教育出版社は、繰り返し学習が促されていて、自分で進められるようになっていく。啓林館はQRコードが付いており、目当てはたくさんあるが深い学びには続いていかないと判断し、教育出版社が最適だと判断した。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、算数の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、算数の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、社会について報告を求める。

(「社会」説明員) 東京書籍・教育出版・日本文教出版の3社がある。それぞれ説明する。

東京書籍は、教科書の重さを考え政治・国際編と歴史編に分冊されているところが特色である。学習場面に応じた「学び方コーナー」を示したり、デジタルコンテンツとして「Dマーク」や他教科と関連した項目に「教科関連マーク」を示したりと児童の調べ学習や個に応じた学習に利用しやすい内容となっている。また、まとめ方を例示したり、単元全体を「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」等の観点で構成したりしているため、児童が見通しをもって学習したり、見方や考え方を深めやすいものとなっている。6年生歴史編86ページ、4年生「自然災害からくらしを守る」の単元のように児童にとっては身近な静岡県の内容も扱われており、資料も見やすく配置されているため、扱いやすいと思う。

教育出版は、学習場面に応じた活動例が示されたり、まとめでは学習を整理したり深めたりできるように工夫されている。30、31ページ、また、見開きの冒頭に「この時間の問い」、終末には「次につなげよう」があり、それぞれの学習がつながり、単元全体の一貫性が保たれている。児童にとって身近な事例や写真やイラストを分かりやすく示してあるなど、興味や関心を引き出すような工夫も見られる。示されている事例も多いため、各校の実情に合わせて選択できるように工夫もされている。

日本文教出版は、学習問題に対する複数の考えや振り返りが例示されている。6年生85ページ、また、社会的な見方を広げたり考えを深めたりしやすいように視点が明確になっている。5年生48、49ページ、また、各単元の初めに「学習計画」が設けられており、見通しをもって学習できるような工夫もされている。写真や資料を大きく、児童のことで「つぶやき」が示されているため、内容理解がしやすい工夫もある。

それぞれの教科書にはそれぞれのよさがあるが、総合的に判断し児童の学習にとって最も扱いやすい東京書籍が適切であると考えている。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) 東京書籍は上下と教科書が分かれているが、他はすべて1冊にまとまっている。上下に分けた方が軽いなど選定の理由に係るところがあるか。

(「社会」説明員) 2つに分けることで、児童にとっては、重さが軽くなる。もう一つは項目で分けてあり、大きなくくりがわかりやすいのではないかと考えた。

(佐原委員) 政治・国際編と歴史編とで分かれるが、学習の順番はあるのか。

(「社会」説明員) 順序よく学んでいくので、3、4年生で政治・国際編の後に歴史編を学び、また5、6年生になって、政治・国際編の後に歴史編を学びというようにつながりをもって学習していくことになる。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、社会の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、社会の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、地図について報告を求める。

(「地図」説明員) 地図は、東京書籍と帝国書院の2社である。それぞれ説明する。

東京書籍は、学習の手がかりを示した多彩なキャラクターや各時代の日本と世界とのかかわりを表した地図が充実している。写真やイラストで興味や関心を引き出したり、調べ方を示したりするなど扱いやすい内容となっている。

帝国書院は、多くのページで二次元コードがついておりタブレットパソコンで読み取ると、そのページに関連した追加情報やクイズなどを行うことができたり、空撮動画を視聴できるようになっており、児童の興味・関心を引き出したり分かりやすくしたりする工夫がある。7ページ、また、地図帳の使い方のページが充実していること、配色がよく見やすいこと、自学自習ができる問い「地図マスターへの道」など、地図活用の技能習得や「社会的な見方・考え方」の育成につながるように工夫されている。

それぞれのよさがあるが、児童の学習にとってより扱いやすく、技能を高めやすい帝国書院が適切であると考えます。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(渡辺教育長) 質疑がないようであれば、地図の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、地図の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、国語について報告を求める。

(「国語」説明員) どの教科書にも、学習指導要領の目標と内容をもれなく指導できるよう、単元構成や教材配列に工夫や配慮がなされているとともに、児童が意欲を持ち、主体的に学習活動に取り組むことができるよう、社会の動きに合わせた題材が取り上げられ、挿絵、資料、写真等が豊富に掲載されている。

まず、東京書籍は、言語活動やめあてを示した導入のページと、教材文に関わる挿絵やリード文を記載したページを見開きにすることで、学習の流れをつかむことがで

きる。また、語彙を増やす助けになるよう巻末に「言葉の広場」が掲載されている。3年生以上の教科書にはインターネットの資料を見ることができるQRコードが掲載され、児童の主体的な学び、発展的な学びを支えるよう工夫されている。

続いて、学校図書は、伝えたり紹介したりする活動が多く示され、対話的な学びにつながるよう工夫されている。単元ごとに育成を目指す資質・能力が「国語のカギ」として取り上げられ、解説されている。また、教科書全体が穏やかで落ち着いた色調である。

次に、教育出版は、語彙を増やしたり定着させたりするために、「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」のコーナーが継続して配置されている。また、読書を勧めるために「命の重み」「科学が開く世界」などテーマに沿って多くの本が紹介されている。児童の主体的な学びを支えるよう、巻頭にQRコードが記載されている。

最後に、光村図書である。どの学年においても、児童の知的好奇心をかき立てるような幅広い話題を扱う教材が取り上げられている。また、巻頭と単元の扉にそれぞれの領域の既習事項が整理して掲載されており、学習を進めながら必要な事項を確認することができる。「見通しを持つよう」で学習の過程で何を学ぶのかが詳細に示され、見通しを持って進めることができる。どの学年の教科書にもQRコードが随所に記載され、学習場面に即して資料を閲覧するなどの主体的な学び、発展的な学びを支えることができる。

それぞれの教科書に特色があるが、光村図書発行の教科書は、バランスのとれた構成で、児童が主体的に学び、学ぶ楽しさを感じることができるよう工夫されているため、湖西市の児童にとっては最適であると思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) 私もこれが良いと思った。文字の大きさが見やすく、教科書のサイズもちょうど良い。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

続いて、書写について報告を求める。

(「書写」説明員) どの教科書にも、小学生の発達段階を意識して、姿勢・筆記具の持ち方などの基本から、筆順、字形、配列、点画のつながりなどの学習が系統的に設定されている。また、色彩が上手に使われ、筆の動きが分かりやすくなるよう工夫されている。

東京書籍は、文字を整えて書くための原理・原則を「書写のかぎ」とし、その原則を児童自らが見付けることで、主体的な学びを促す内容になっている。「生活に広げよう」では、「書写のかぎ」を他教科等の活動に生かす際に意識するポイントが丁寧に示されている。「トン・スー・ピタッ」と毛筆の運び方を音声化しているのも工夫の一つである。

続いて、学校図書は、「書写のふしぎ」で用具について説明したり、「書写の資料館」で文字に関わる様々な資料を掲載したりしている。全学年通して「確かめ」「考え」「生かす」という学習過程が色分けされており、学習の進め方が一目で分かるように配慮されている。

次に、教育出版は、発達段階に応じた「めあて」が示されており、全学年を通して「めあて」と「ふり返ろう」が一目で分かるデザインで統一されている。また、筆圧の大きさを1, 2, 3という数値で、分かりやすく表している。

次に、光村図書である。巻末に「たいせつのまとめ」があり、筆使いや字形など系統的に学習してきた事柄が一目で分かる構成になっている。また、始筆、送筆、終筆における筆の向きを分かりやすくイラストで示したり、筆の運び方を「トン・スー・トン」と音声化したりする工夫がある。QRコードが各手本のページに付いており、動画資料を手軽に見られるようになっている。

最後に、日本文教出版は、書写で身に付けた力を日常生活で活用できるよう「国語の広場」や「生活と書写」などの教材が配列されている。筆の運び方を矢印や記号でシンプルに構成しているのも工夫の一つである。

どの教科書も特色があるが、光村図書発行の教科書は、各ページの情報量が豊かで、学習内容の理解を深めていけるよう工夫されているため、湖西市の児童にとっては最適であると思う。

以上。

(渡辺教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(佐原委員) 書写というと毛筆を学ぶというイメージがあるが、手紙の書き方を学ぶこともあるのか。

(「書写」説明員) 毛筆と硬筆を交互に学び、手紙の書き方については、書写の時間や国語の時間でも学習する。

(佐原委員) 光村図書は手紙と書き方が丁寧に書いてありとても良いと思う。

(渡辺教育長) 他に質疑がないようであれば、書写の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(渡辺教育長) 挙手全員である。よって、書写の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

最後に、本日配布した「別冊 教科用図書採択資料」は、この後、回収させていただき、事務局で処分させていただく。また、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。本日の議事録についても、教科用図書の採択期限である8月31日を過ぎた後に公表することとする。本日の案件については、これをもって全て終了した。

これにて、令和元年7月湖西市教育委員会定例会を閉会する。

閉 会 午後4時23分終了